



2025年5月期 決算説明会

2025年7月25日

三光合成株式会社
[東証 プライム市場 7888]





I 会社概要

II 2025年5月期 決算概要

III 2026年5月期 連結業績予想

IV 中長期の取組み

I 会社概要

会社概要

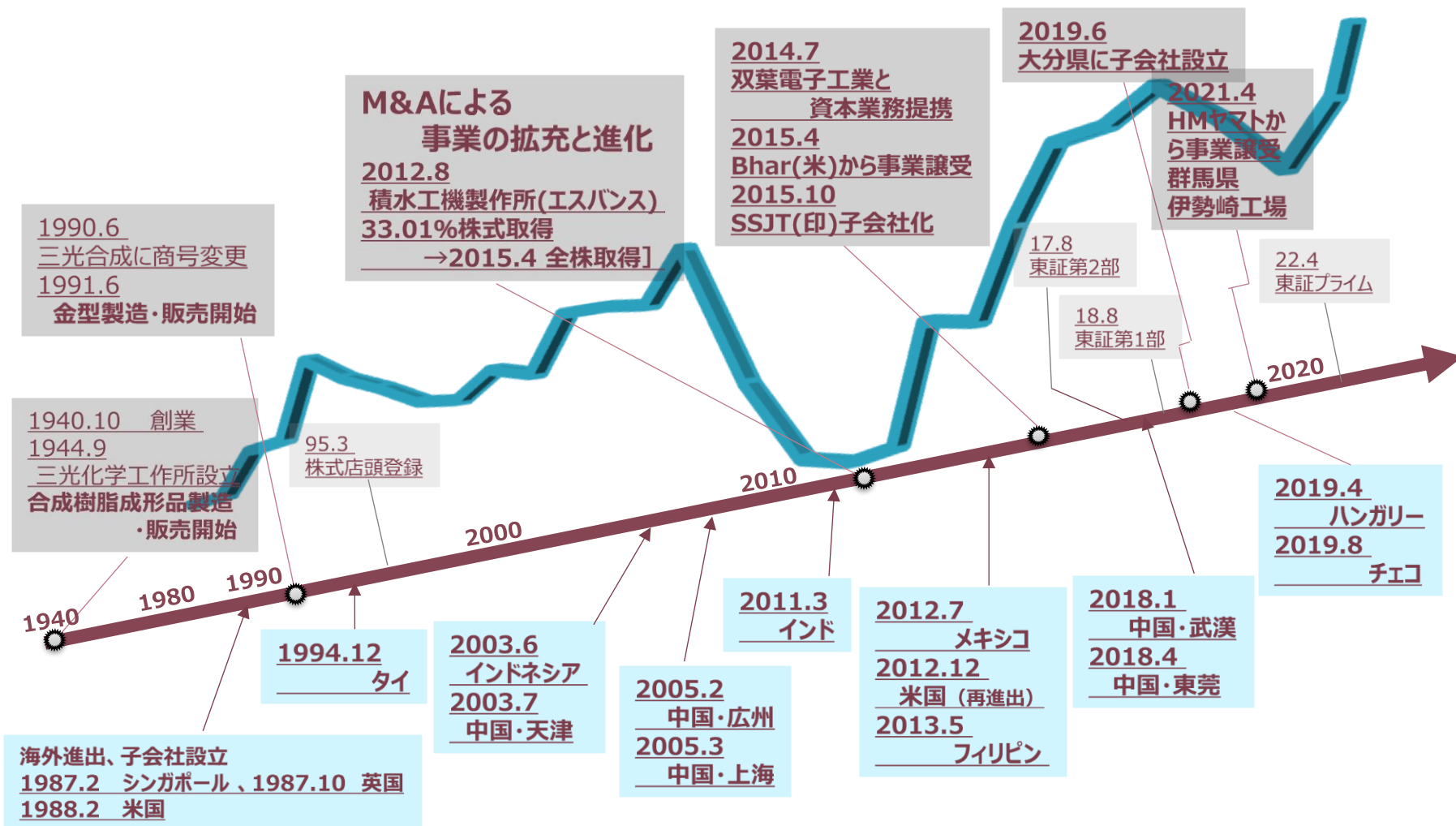


社 名	三光合成株式会社（SANKO GOSEI LTD.）
代 表 者	代表取締役会長 黒田 健宗 代表取締役社長 久住アーメン
本 社	富山県南砺市土生新1200番地
資 本 金	4,008百万円
創 業	1940年10月12日
設 立	1944年 9月18日
従 業 員	単体：700名 連結：2,909名（2025年5月末現在）
事 業 内 容	■成形品事業 ・情報・通信機器部門 ・車両部門 ・家電その他部門 ■金型事業

成長の軌跡 | 車両・電子機器向け樹脂成形大手、海外売上過半



完成車メーカーのグローバル生産体制を支える不可欠な存在へ



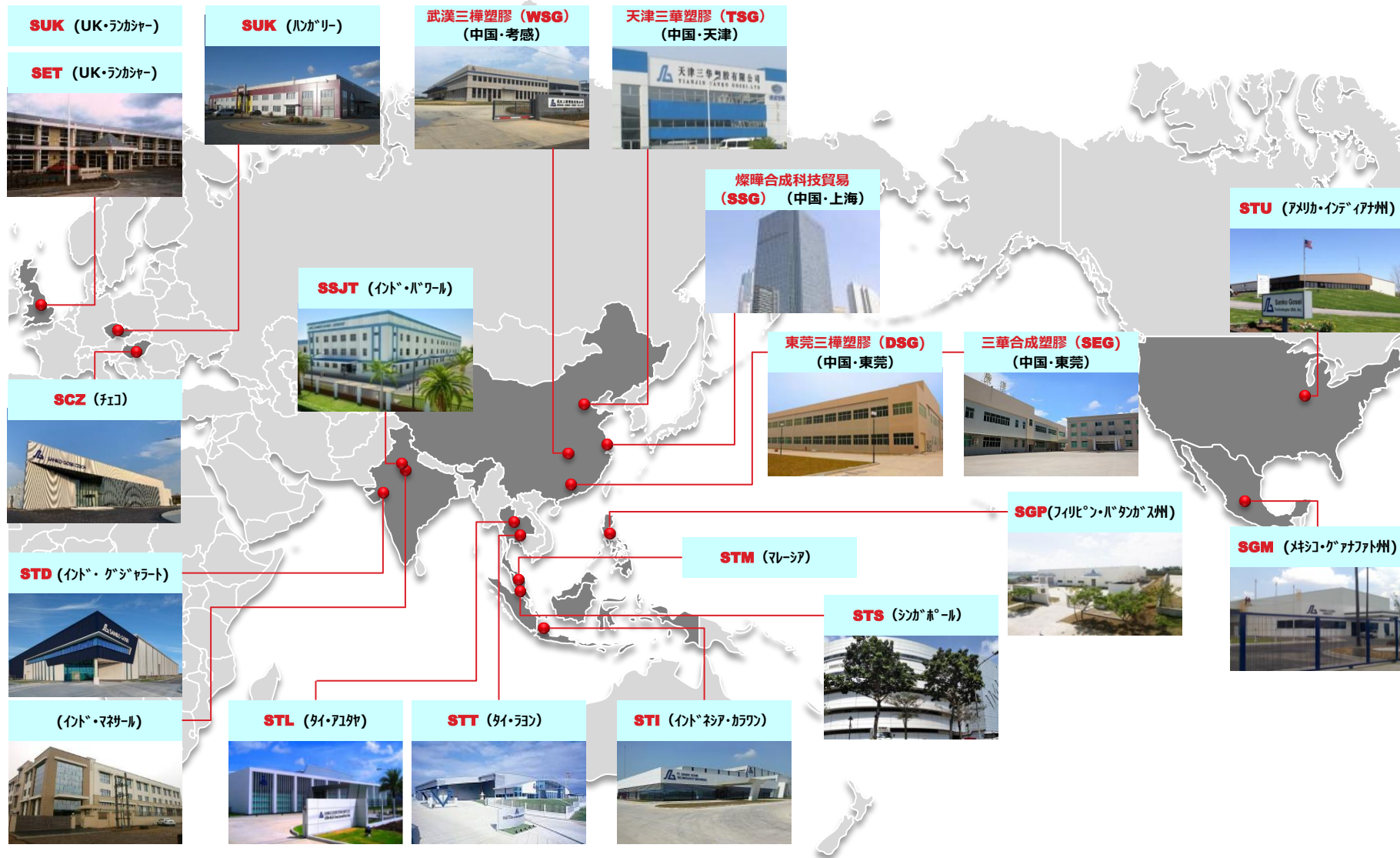
国内拠点 | 成形8工場 金型2工場 営業所5拠点



…成形工場
 …金型工場
 …営業拠点

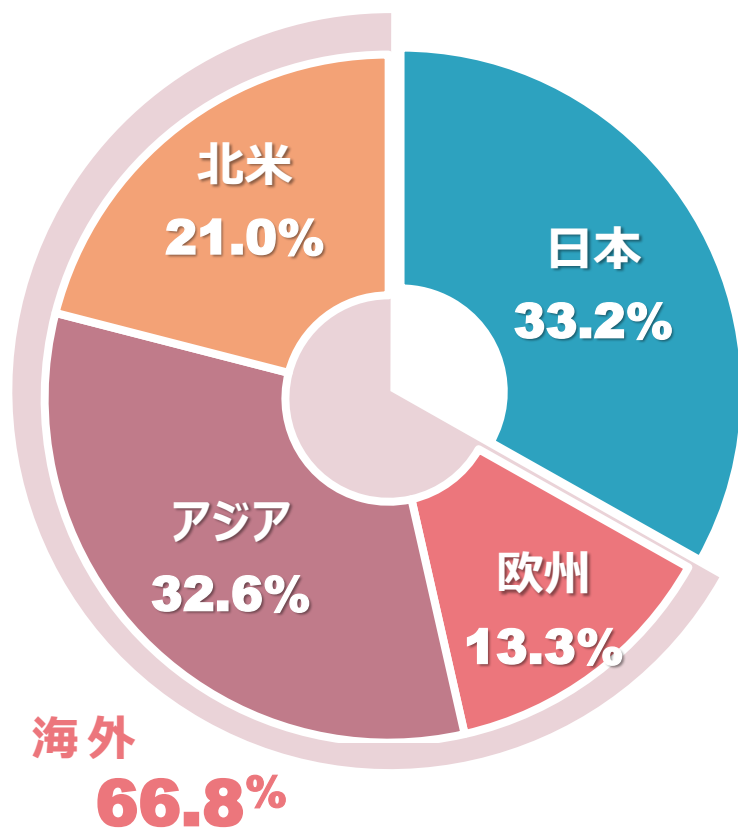


海外拠点 | 12ヶ国／17法人

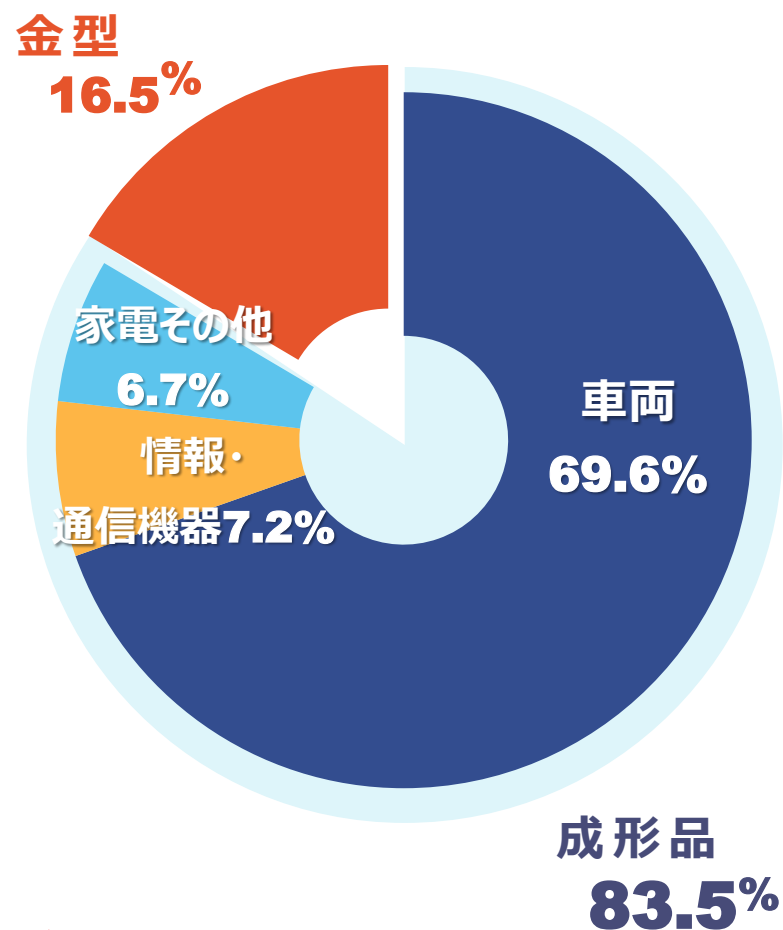




地域別



事業部門別



※本資料中では、構成比の数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります

通常、部品メーカーが外注する **金型設計・製作部門を内包**
顧客ニーズを汲み取り大量生産に耐える金型を設計・製作
大量生産開始後の不具合発生時も即ソリューション実行

当社の製品生産フロー

通常、部品メーカーが外注する部分

顧客の
製造現場での
悩みとニーズ

製品設計

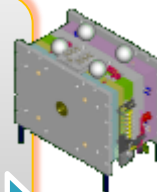
- ・ お客様へ駐在し設計対応

金型設計・製作

CAE解析

- ・ 86年国内草分けとして導入
- ・ 金型メーカーとして最長のレコード保持

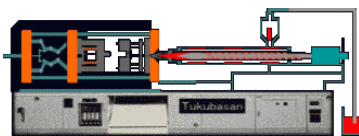
- ・ スタート段階から大量生産に耐える設計
- ...
- ・ 専業金型メーカーとの最大の違い



省力化機器製作



量産



品質管理



納品



Ⅱ 2025年5月期決算概要

2024年6月1日～2025年5月31日

- 企業の収益の改善や雇用・所得環境の改善に加え、インバウンド需要に支えられ、景気は緩やかな回復を見せる一方で、不安定な国際情勢、原材料価格やエネルギー価格の高騰、諸物価の上昇や為替相場の急激な変動、米国の政策動向など依然として先行きは不透明な状態。その中、高付加価値製品の受注と生産体制の整備を強化し、原価低減活動を積極的に推進し、前年比減収ながら増益となった。利益面は5期連続増益となり、過去最高を更新した。

● 売上高	911 億 1 百万円	前期比	2.9 %	↓
● 営業利益	56 億 56 百万円	前期比	36.9 %	↑
● 経常利益	51 億 94 百万円	前期比	32.3 %	↑
● 当期純利益	38 億 57 百万円	前期比	47.6 %	↑

■ 地域別売上高

日 本	前年同期比	7.7 %	↑	302 億 10 百万円
欧 州	前年同期比	15.5 %	↓	121 億 10 百万円
ア ジ ア	前年同期比	11.9 %	↓	296 億 54 百万円
北 米	前年同期比	7.8 %	↑	191 億 25 百万円

■ 事業部門別売上高

成 形 品	前年同期比	3.5 %	↓	760 億 48 百万円
金 型	前年同期比	0.7 %	↑	150 億 53 百万円

※本資料中では、「当期（又は四半期）純利益」の表記は「親会社株主に帰属する当期（又は四半期）純利益」を意味します

2025年5月期 損益状況



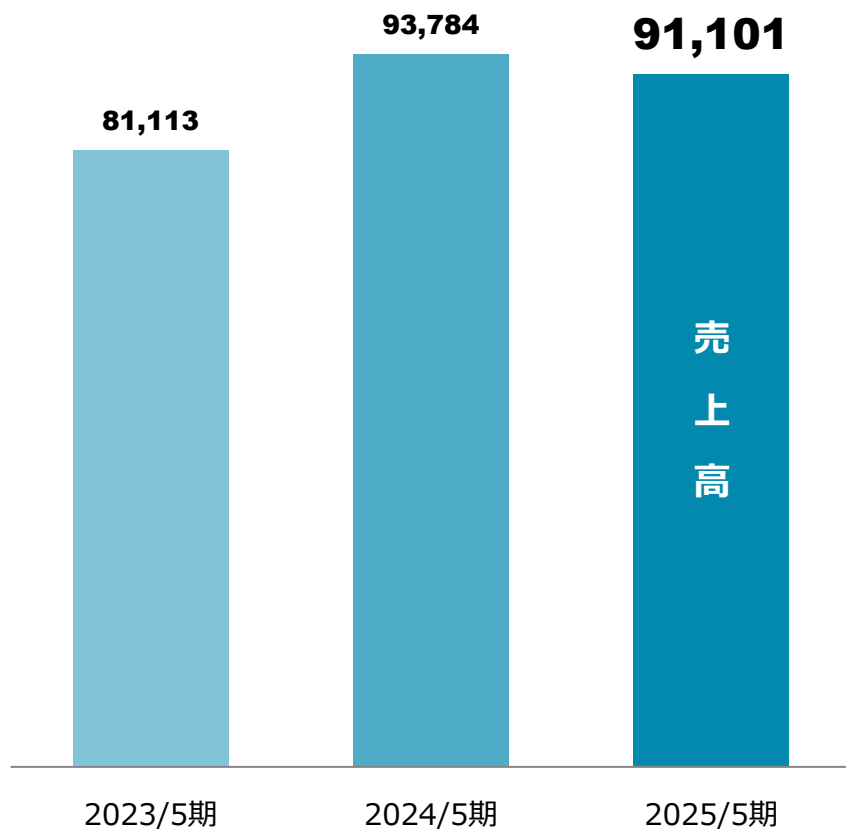
	2024年5月期 実 績		2025年5月期 実 績					
	金 額 (百万円)	売上高比 (%)	金 額 (百万円)	売上高比 (%)	前期比		対期初予想、進捗	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)	業績予想 (百万円)	進捗率 (%)
売上高	93,784	—	91,101	—	▲2,683	▲2.9	95,000	95.9
売上原価	80,406	85.7	76,080	83.5	▲4,326	▲5.4	—	—
売上総利益	13,378	14.3	15,020	16.5	+1,642	+12.3	—	—
販管費	9,246	9.9	9,364	10.3	+118	+1.3	—	—
営業利益	4,131	4.4	5,656	6.2	+1,525	+36.9	4,800	117.8
経常利益	3,927	4.2	5,194	5.7	+1,267	+32.3	4,400	118.0
当期純利益	2,612	2.8	3,857	4.2	+1,245	+47.7	2,900	133.0
ROE	9.4%		12.4%		+3.0pt			

売上高・営業利益・経常利益の推移



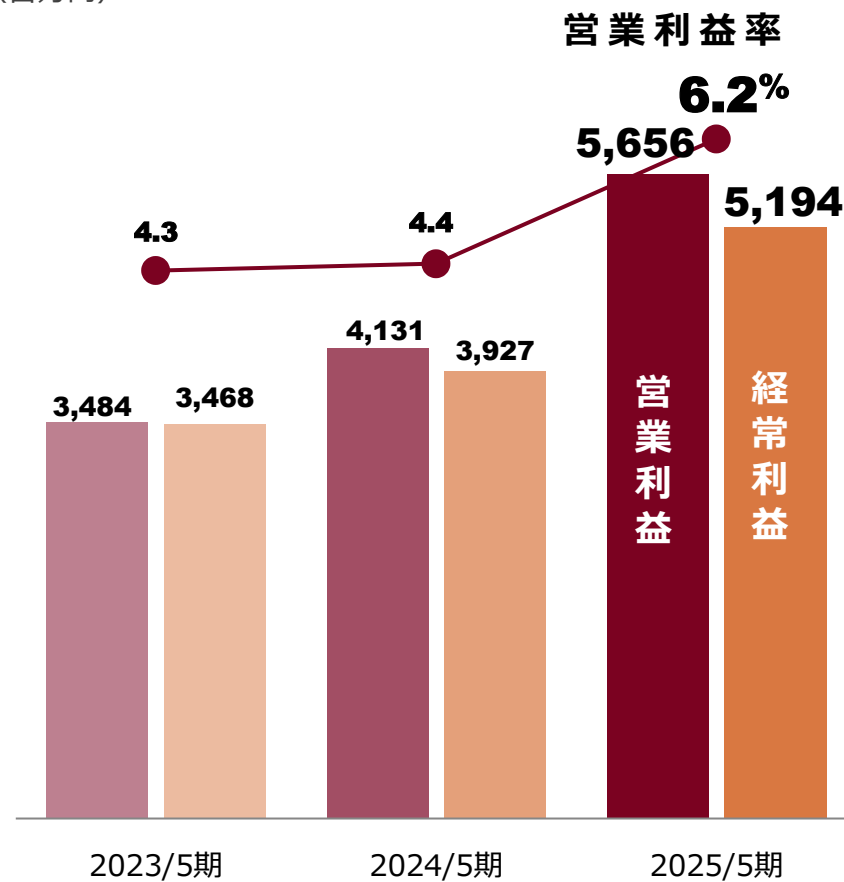
売上高

(百万円)



営業利益・経常利益／営業利益率

(百万円)

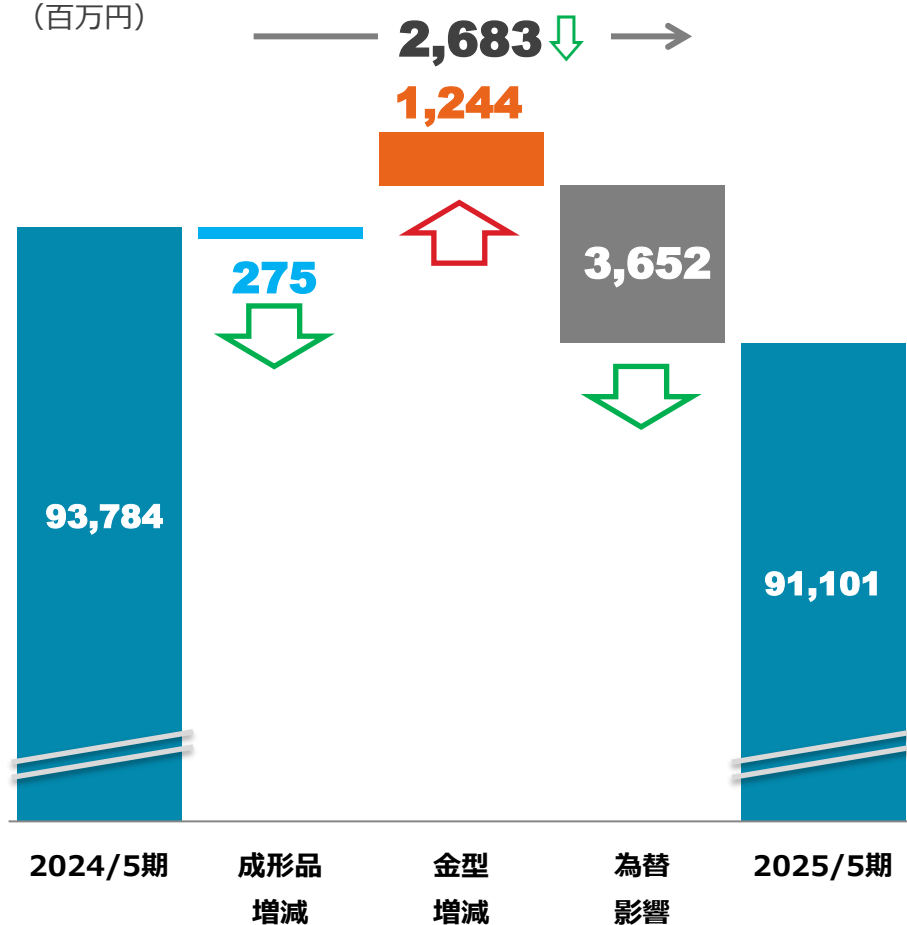


売上高・営業利益の増減要因分析



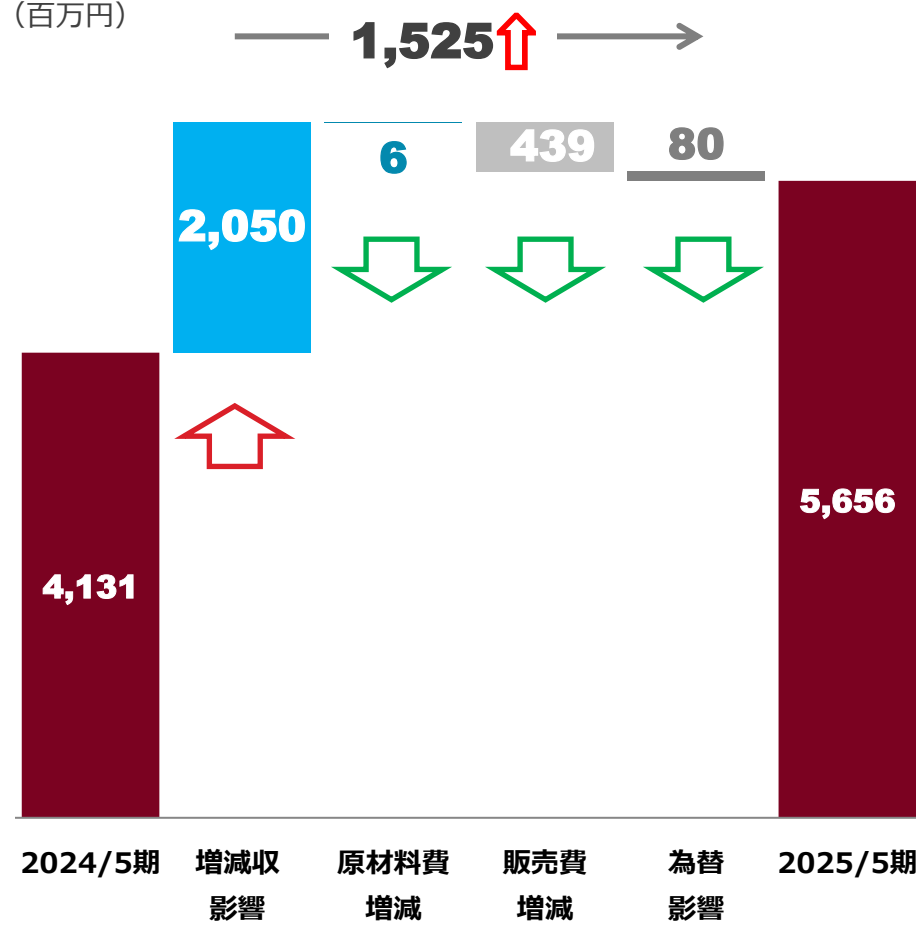
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)

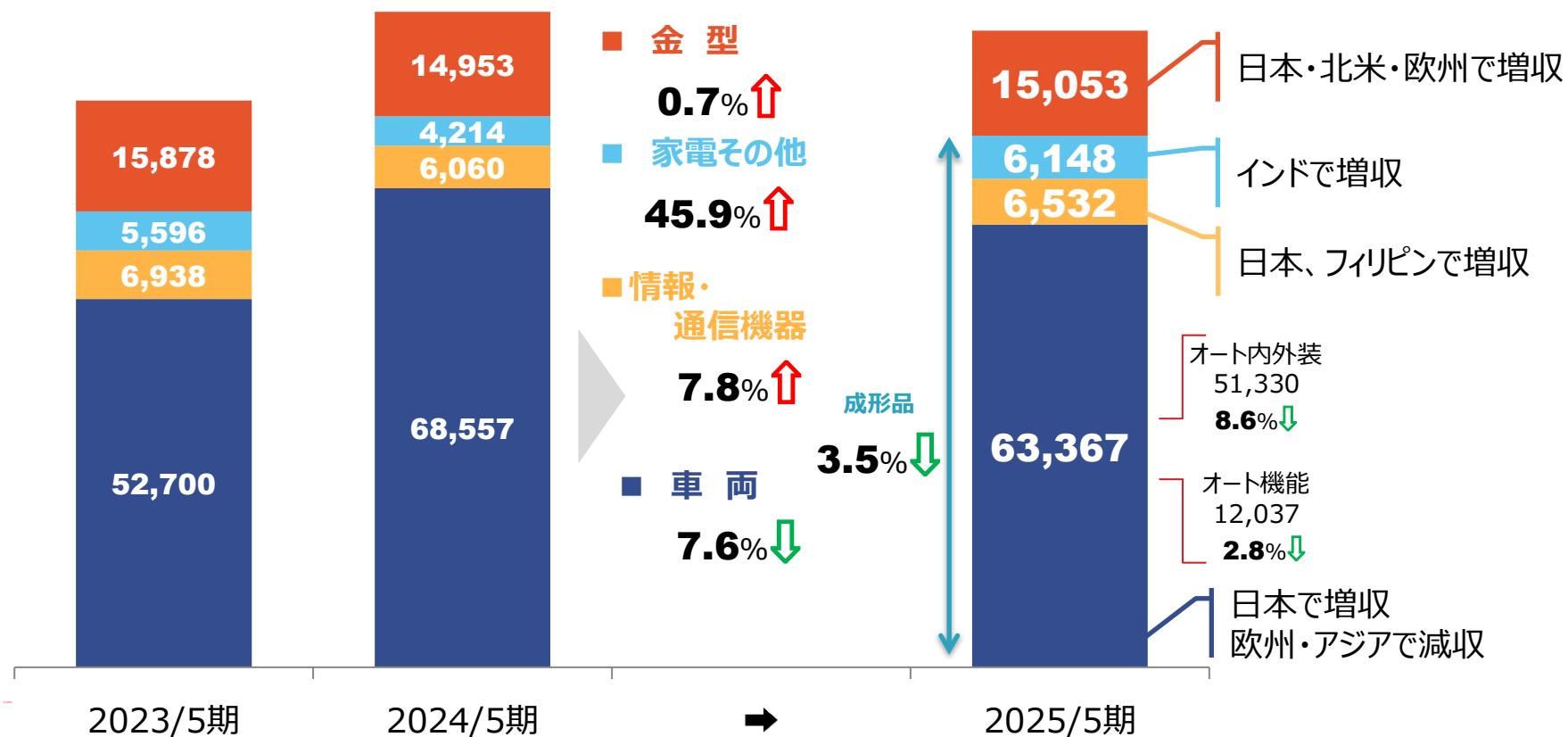


事業部門別売上高の推移



事業部門別売上高

(百万円)



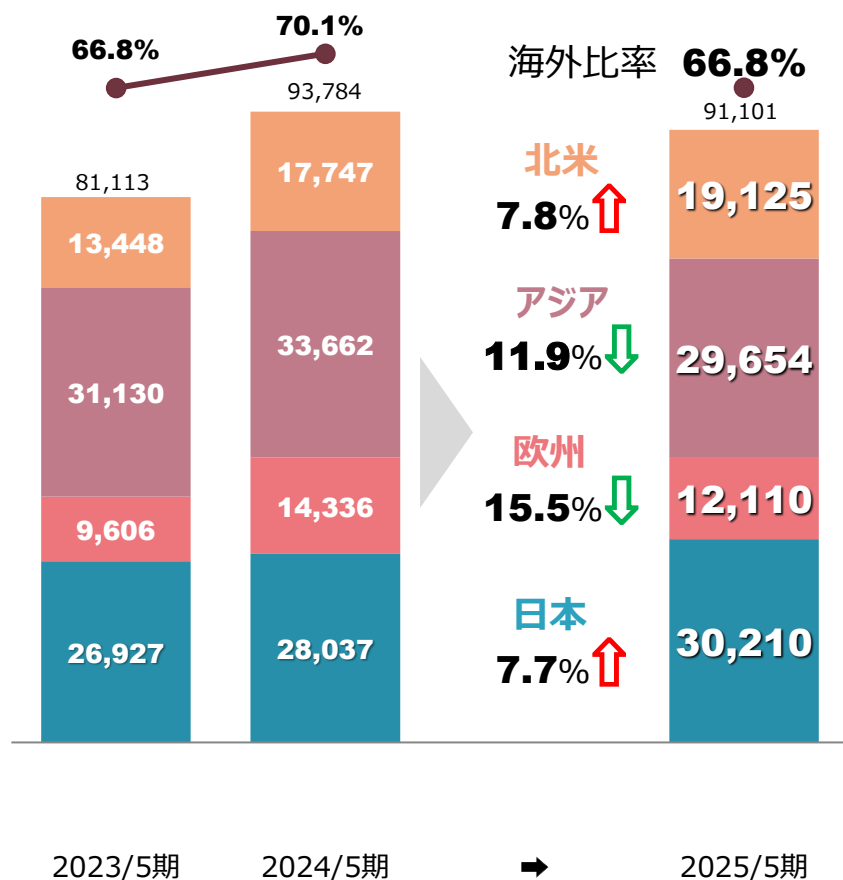
※本資料中では、各内訳数値の単位未満の端数処理の関係でその計と合計が一致しない場合や増減率の数値が一致しない場合があります

地域別売上高・営業利益の推移



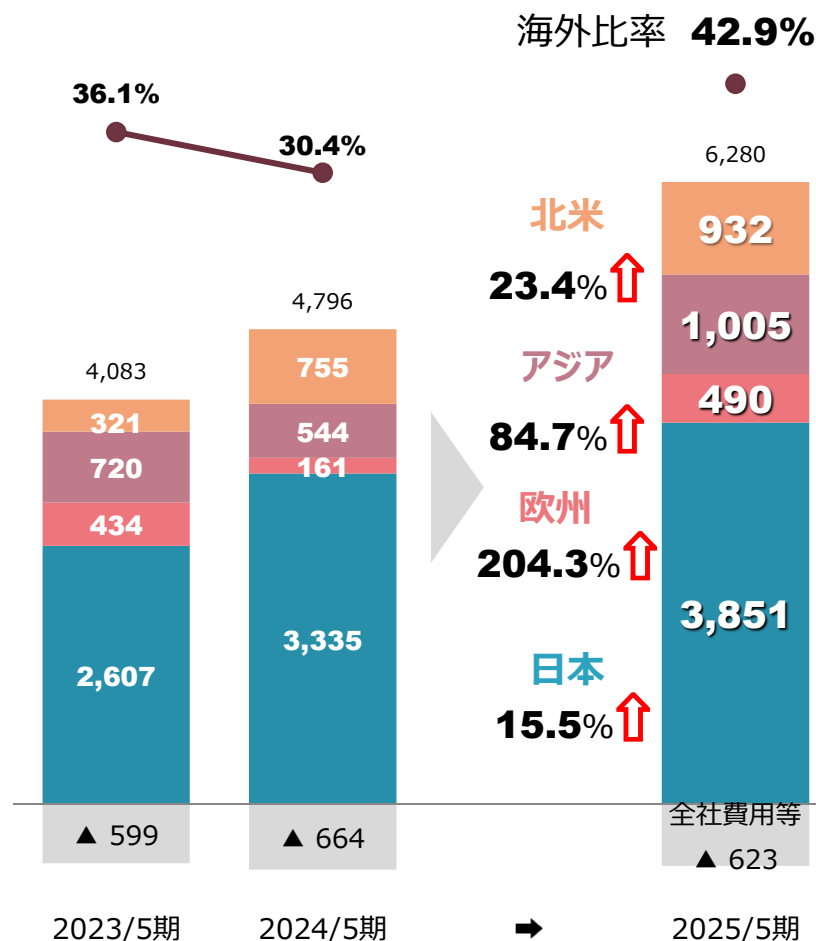
地域別売上高／海外比率

(百万円)



地域別営業利益／海外比率

(百万円)



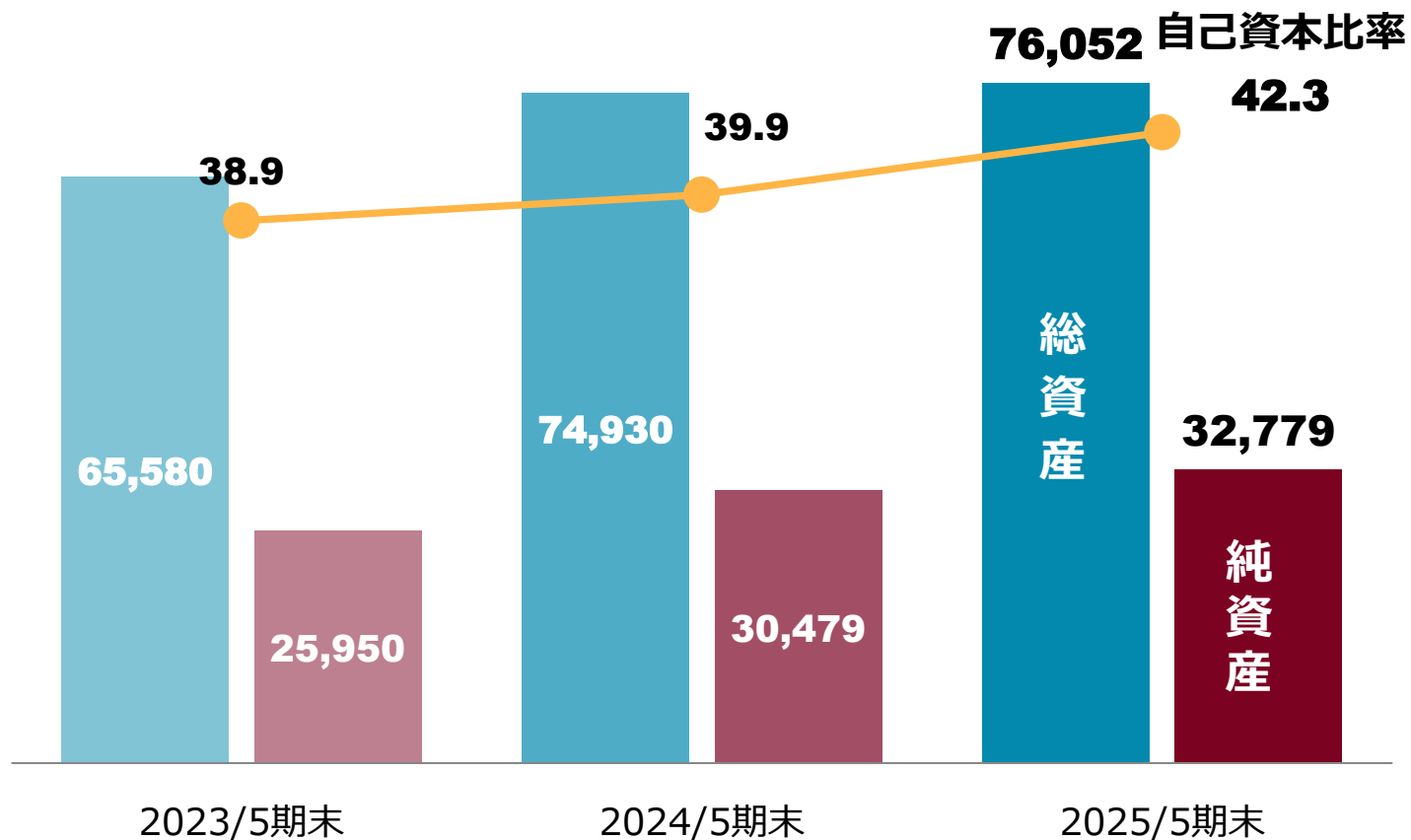
2025年5月期 財務状況



	2024年5月期末 2024.5.31		2025年5月期末 2025.5.31			
	(百万円)	構成比 (%)	(百万円)	構成比 (%)	前期末比増減額／主な増減要因 (百万円)	
■ 流動資産	40,987	54.7	40,097	52.7	▲ 890	現預金 売掛金・棚卸資産 増加 減少
■ 固定資産	33,942	45.3	35,954	47.3	+2,012	有形固定資産 +1,982
資産合計	74,930	100.0	76,052	100.0	+1,122	
■ 流動負債	33,032	44.1	26,180	34.4	▲ 6,852	
■ 固定負債	11,418	15.2	17,092	22.5	+5,674	
負債合計	44,450	59.3	43,272	56.9	▲ 1,178	
純資産合計	30,479	40.7	32,779	43.1	+2,300	利益剰余金 +3,247
負債純資産合計	74,930	100.0	76,052	100.0	+1,122	

総資産・純資産／自己資本比率

(百万円)



2025年5月期 キャッシュ・フロー状況



	2024年5月期	2025年5月期		
	(百万円)	(百万円)	主なキャッシュ・インフロー／アウトフロー(百万円)	
■ 営業活動によるキャッシュ・フロー	+ 5,697	+ 9,141	税前当期純利益	+ 5,102
			減価償却費	+ 4,151
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 4,942	▲ 5,888	有形固定資産取得	▲ 5,820
フリー・キャッシュ・フロー	+ 755	+ 3,253		
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 110	▲ 984	短期借入金	▲ 3,080
			長期借入金	+ 4,275
			リース債務返済	▲ 1,553
現金及び現金同等物の増減額	+ 1,183	+ 2,070		
現金及び現金同等物の期首残高	8,775	9,958		
現金及び現金同等物の期末残高	9,958	12,029		

Ⅲ 2026年5月期 連結業績予想

2025年6月1日～2026年5月31日

2026年5月期 業績見通し | 売上高過去最高を更新



- 米国政権移行に伴い、先行き不透明な状況が続くが、引き続き高付加価値製品、金型の受注活動を積極化するとともに、安定した収益構造の確保と経営体質の強化を図る。売上高、利益で過去最高を更新し、増収増益を目指す。

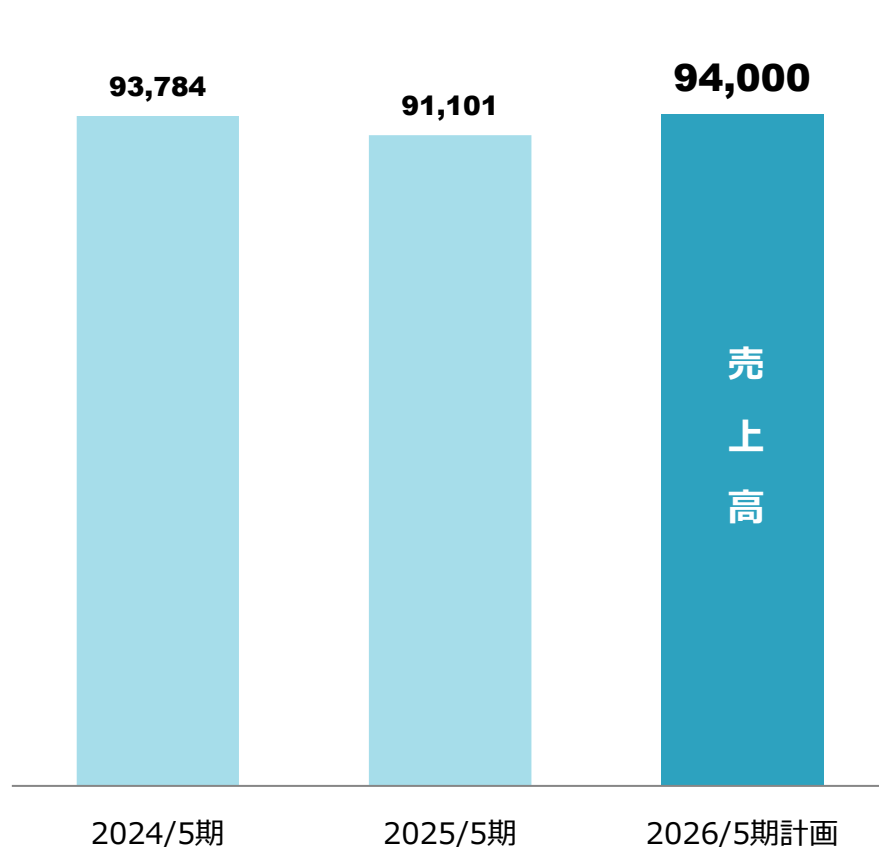
	2025年5月期 通期実績		2026年5月期 通期計画			
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	前期比 増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	91,101	—	94,000	—	+2,899	+3.2
営業利益	5,656	6.2	6,100	6.5	+444	+7.8
経常利益	5,194	5.7	5,500	5.9	+306	+5.9
当期純利益	3,857	4.2	4,000	4.3	+143	+3.7
1株当たり 当期純利益	126. ⁵³ 円	—	131. ²¹ 円	—	+4. ⁶⁸ 円	—
1株当たり 配当金	24. ⁰⁰ 円	—	28. ⁰⁰ 円	—	+4. ⁰⁰ 円	—
ROE	12.4%		12~13% (予想)			

売上高・営業利益・経常利益の見通し



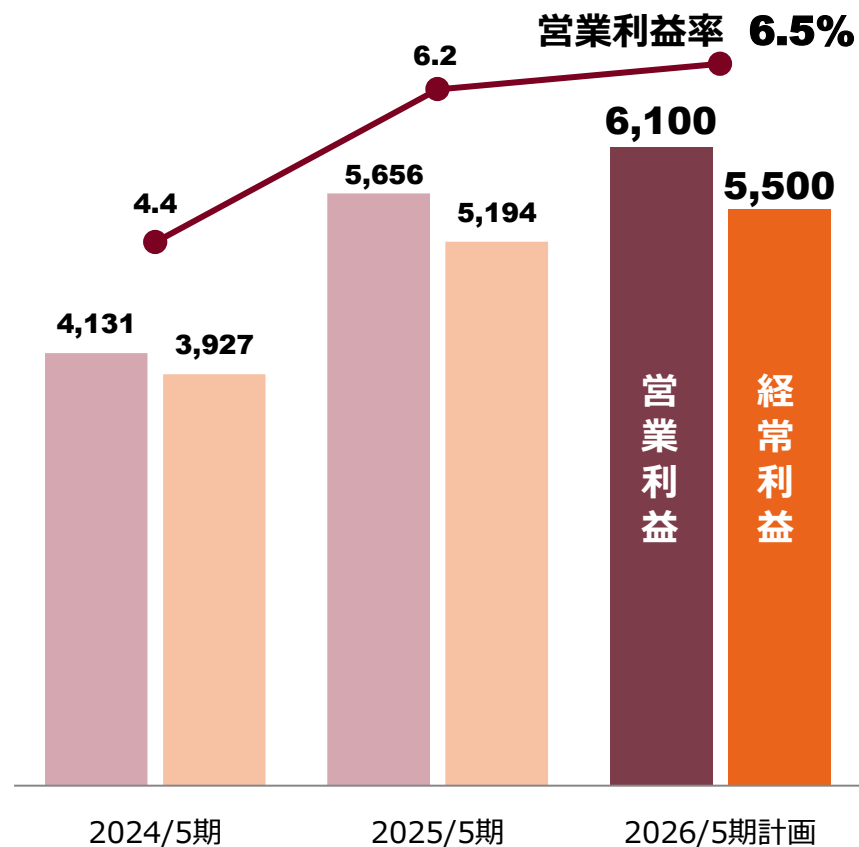
売上高

(百万円)



営業利益・経常利益／営業利益率

(百万円)

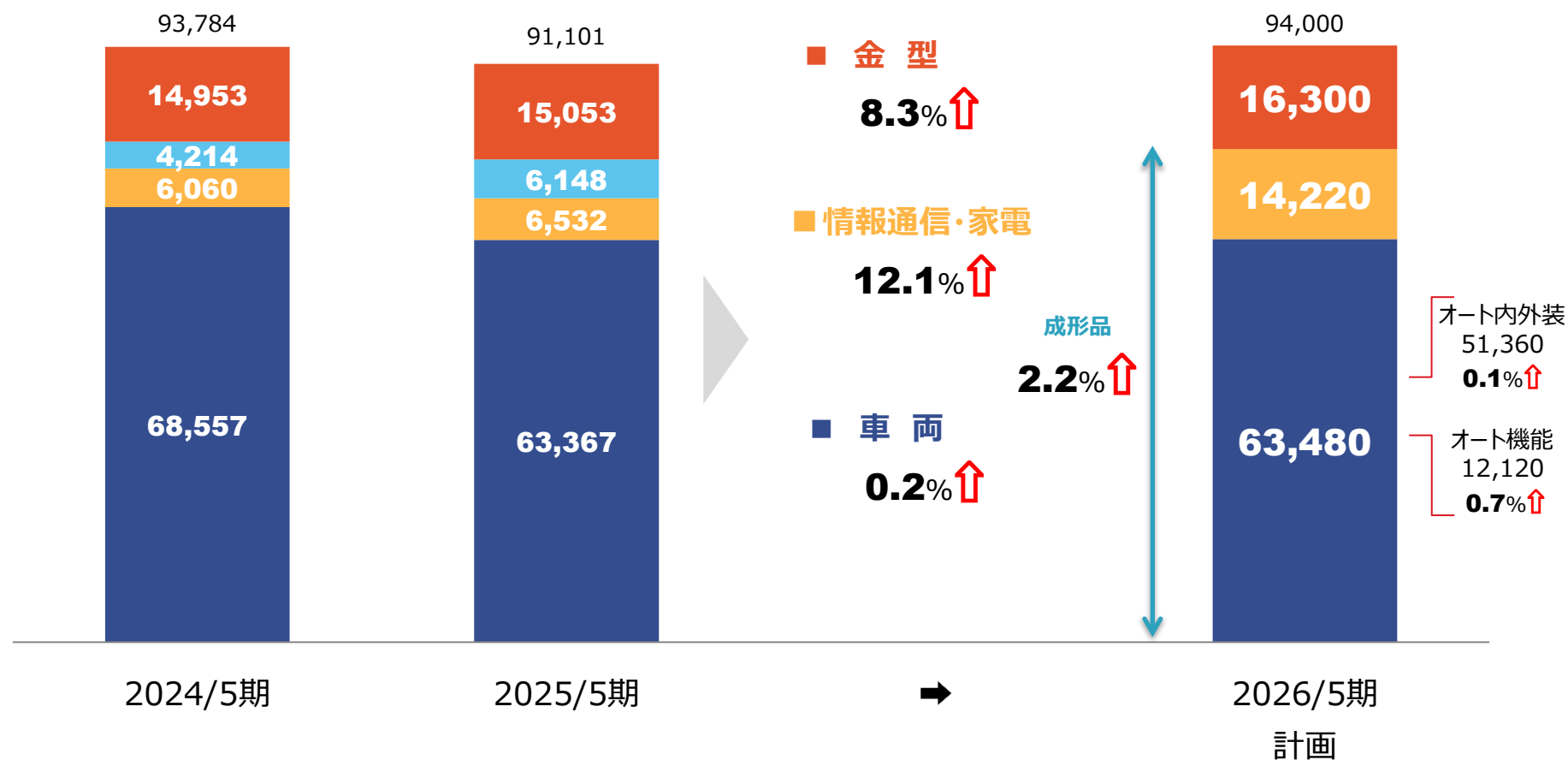


事業部門別売上高の見通し



事業部門別売上高

(百万円)

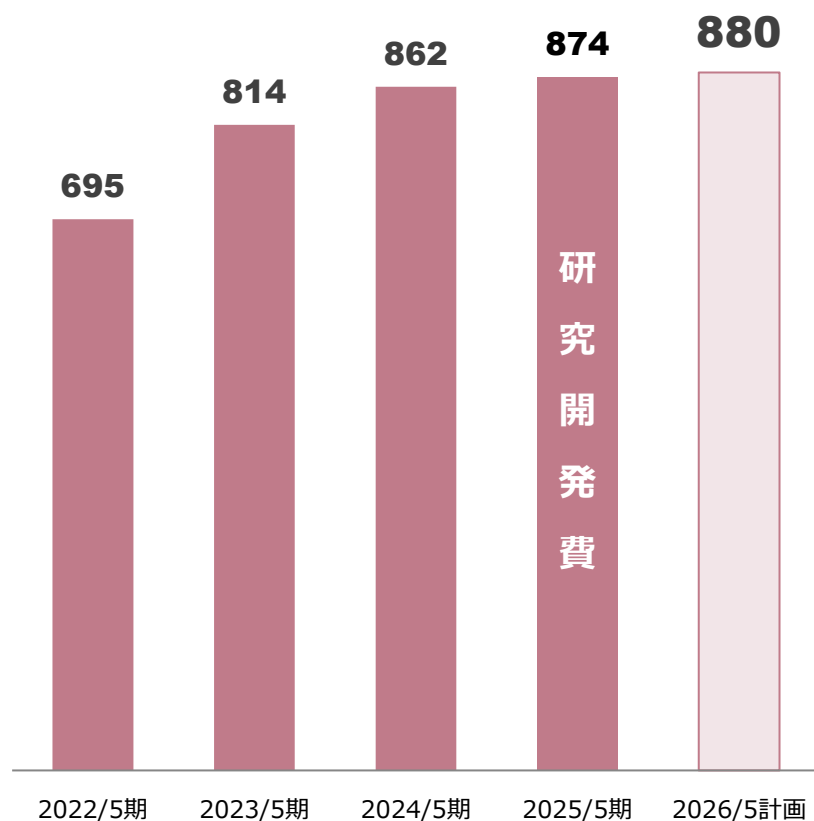


研究開発費、設備投資額・減価償却費の見通し



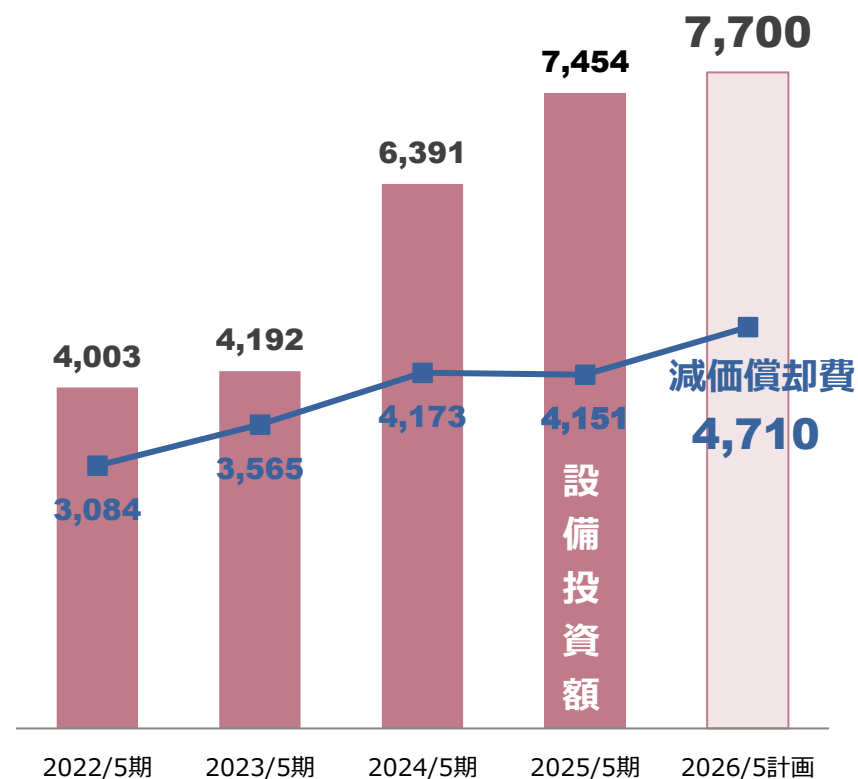
研究開発費

(百万円)

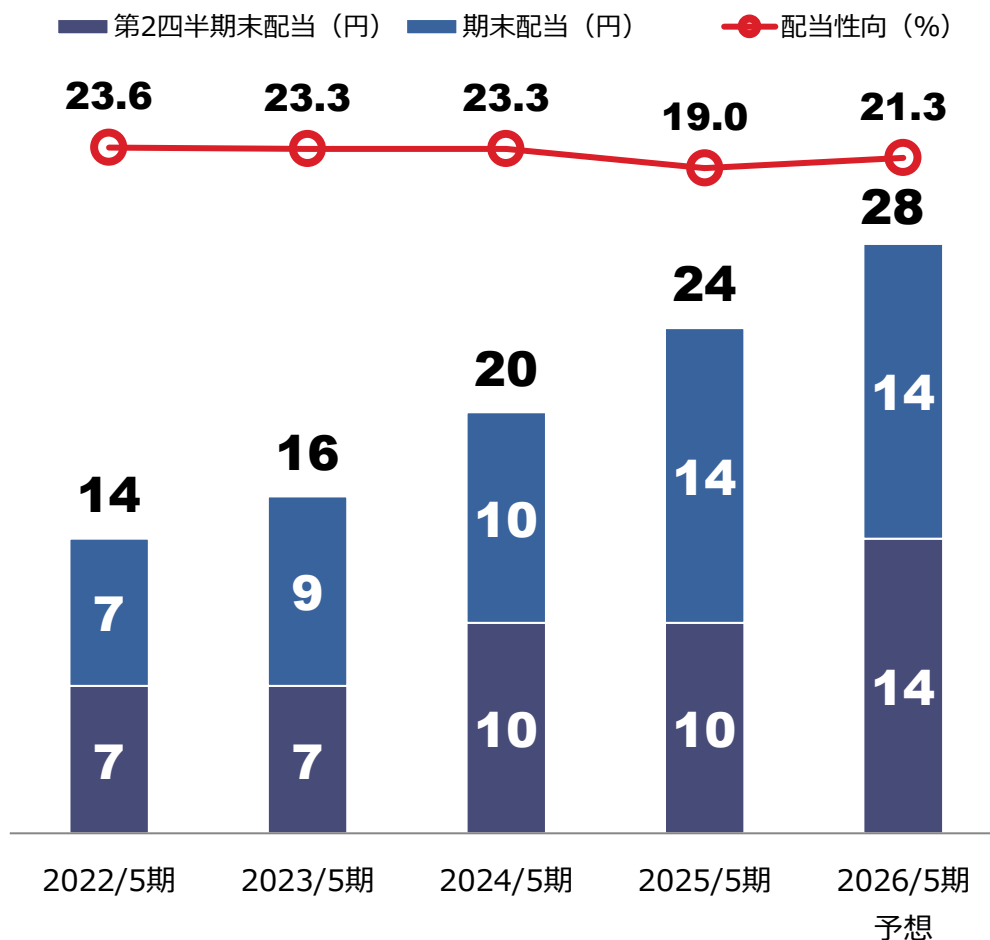


設備投資額・減価償却費

(百万円)



年間配当金の推移



配当基本方針

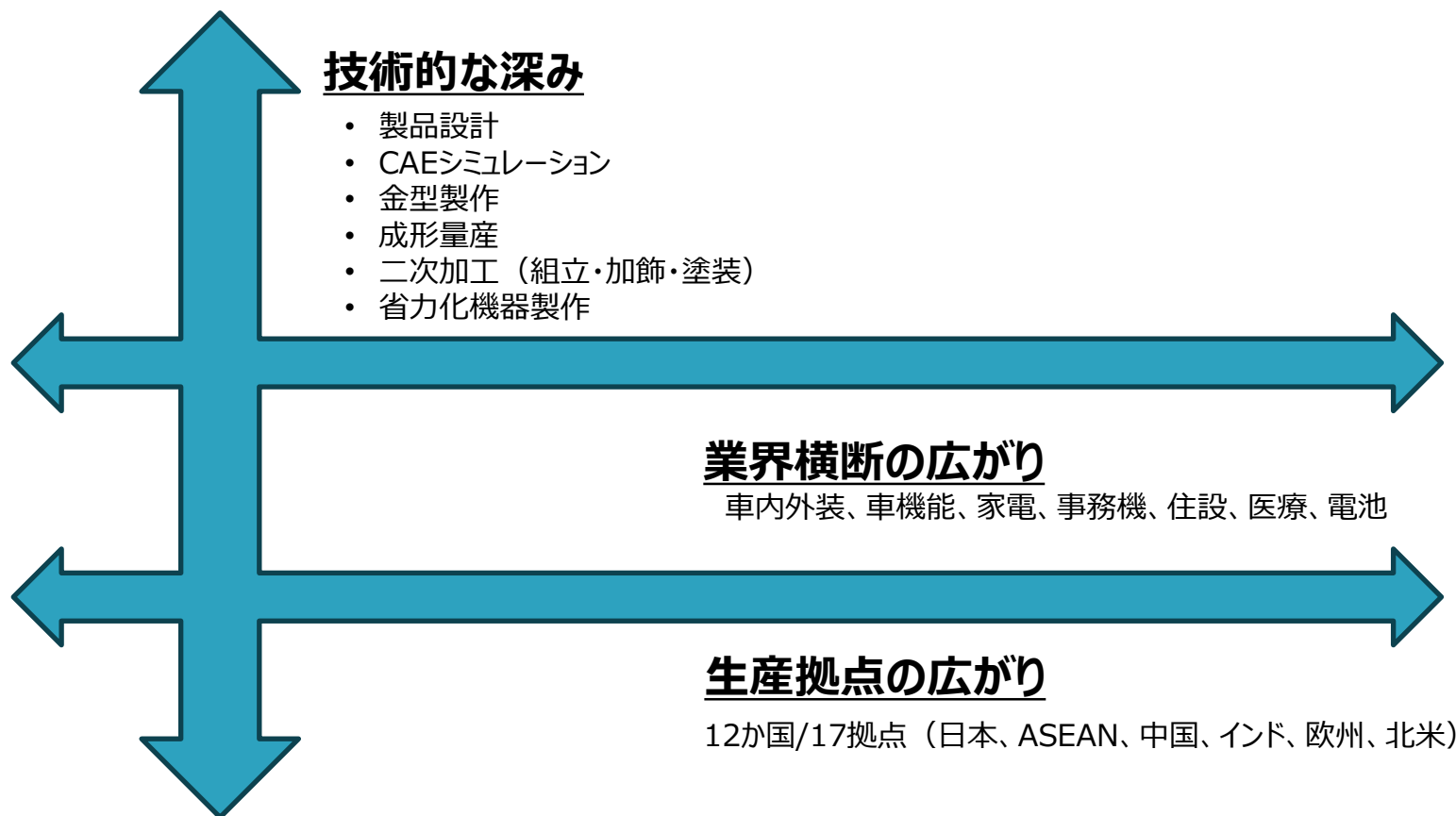
安定的な配当を継続していくと同時に、業績に応じ積極的に株主に還元

内部留保資金

競争力の維持・強化や経営基盤拡充のため、設備投資や開発活動に充当

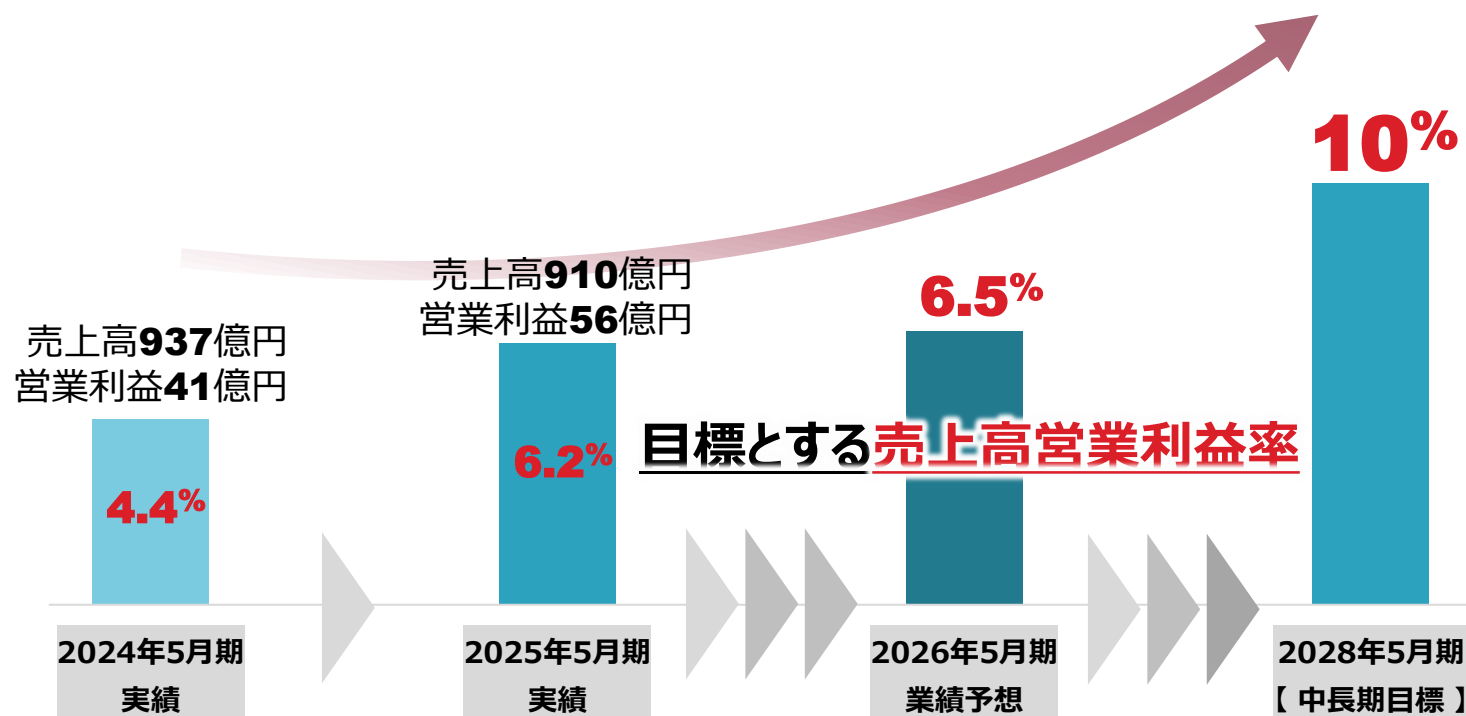
IV 中長期の取組み

三光合成の強みを生かし、持続的な増収増益で、ステークホルダーの期待に応える強みは、三光合成ほど“深みと広がりがあるプラスチック専門メーカー”は世界に存在しないこと Only One



目標 **10・10・10** “トリプル10”

売上高 **1,000**億円・営業利益 **100**億円・営業利益率 **10%**

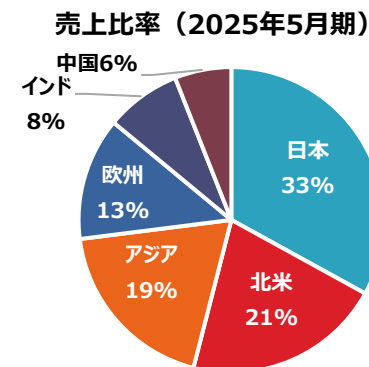


2025年5月期の成功（増益）パターンを強みへと進化させる

三光合成の成功パターン

● 特定拠点に集中せず、グローバルで稼ぐビジネスモデル

- ・2025年5月期は、日本・北米が利益をけん引し、全拠点が営業黒字
- ・時流に合わせメリハリをつけた戦略
北米・インド：積極投資
中国：武漢の日本人駐在を撤収



● 日本で確立した生産性向上の施策（生産性2倍活動）をグローバルに展開

- ・日本の工場は海外ベンチマークを目指す。海外も改善余地はまだまだ大きい
- ・日本の生産準備部隊が海外拠点の採算性を重視した新製品の量産立ち上げを行い、その対価として経営指導料を貰うビジネスモデルを確立

課題：先進国（日・米・欧）の作業員、設計者不足



人口減（少子高齢化）、人手不足はビジネスチャンス

具体的な戦略事例

- ・インド拠点を活かし、熟練工を先進国へ派遣（企業内転勤ビザの活用）
→インド拠点に戻った後、先進国での経験を活せる戦力に
- ・メカトロ部門の強化で、省人化（工程レイアウトの最適化、ロボット化）を推進

課題：廃棄プラスチック利用の法制化



リサイクル（サーキュラーエコノミー）の要求はビジネスチャンス

顧客（自動車、家電、事務機メーカー等）の
「リサイクル材を使いたいのに、なかなかできない」という悩みに応えていく

具体的な戦略事例

物性低下、使い勝手の悪さ（流動ばらつき）、調達の不安定さがネックに



**Dr.亀田NEDO研究、CAE解析、製品・金型設計、
子会社・エスバンスのホットランナー、双葉電子の流動センサー、
プラスチック商社流通網**

総合力を生かして、顧客の課題に対応

課題：グローバル貿易の減速（米国関税、中国・ASEAN不景気）



貿易戦争や拠地的な不景気への耐性を持つ

具体的な戦略事例

- ・米国関税 ➡ 米国での現地生産に切り替えて対応
- ・中国の景気減速 ➡ 価格競争力のある資材輸出を検討
- ・ASEANの景気減速 ➡ 二輪、非オート部品での売り込みをかける

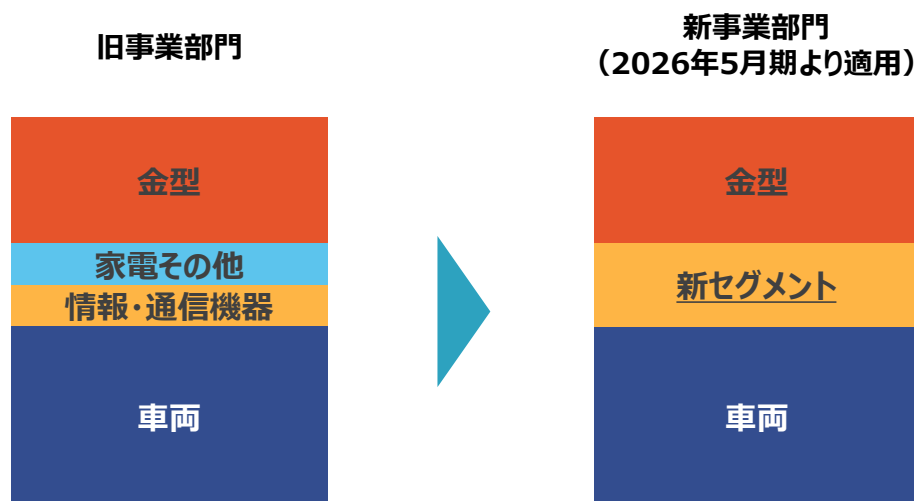
自動車だけではない総合プラスチックメーカーとしての強みを生かす

IABU（Information Appliance Business Unit、情報家電BU）設立

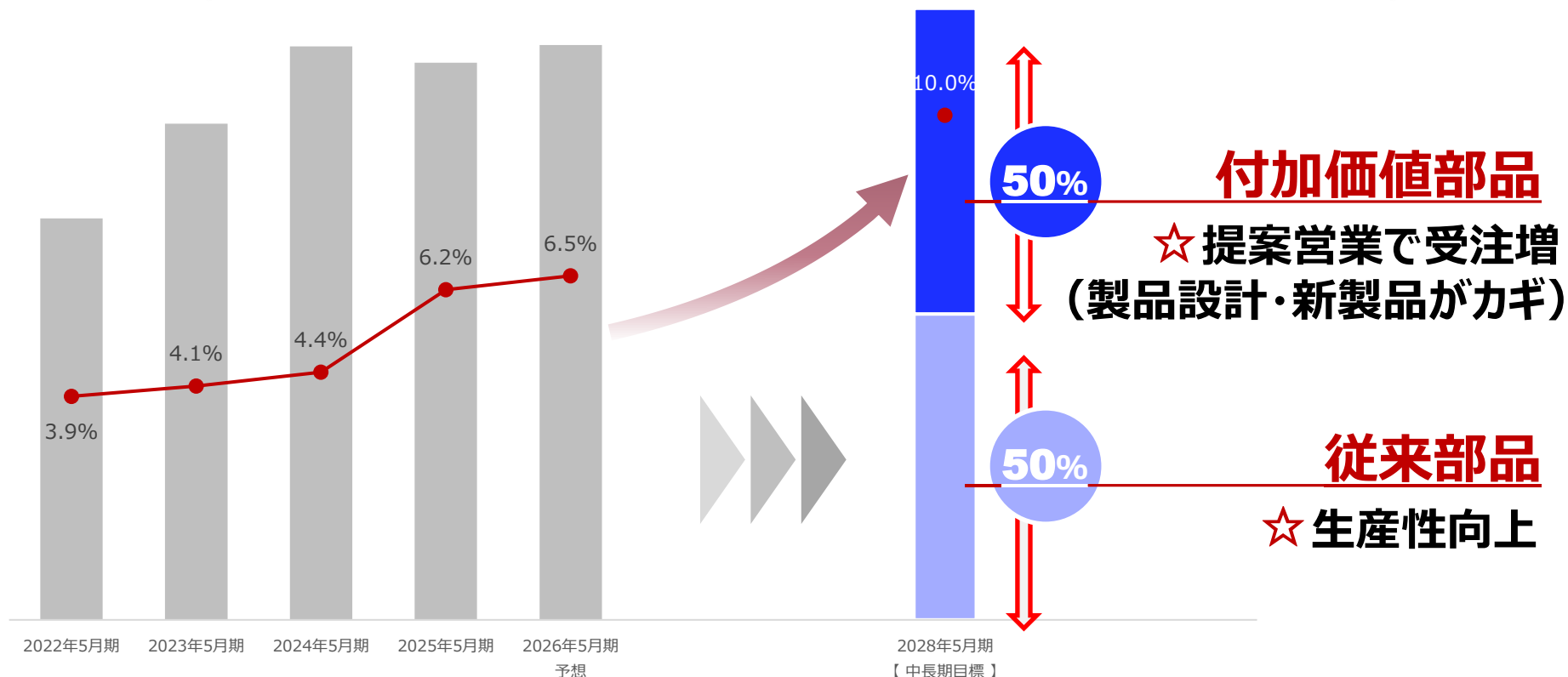


- ・事務機器、家電、通信の脱中国・国内回帰の流れを捉える
- ・蓄電池、信設（V2H他）、医療、半導体のプラスチック市場開拓

IABU設立に伴い、事業セグメントの「情報・通信機器」と「家電その他」を統合し、
新たな事業部門を設定

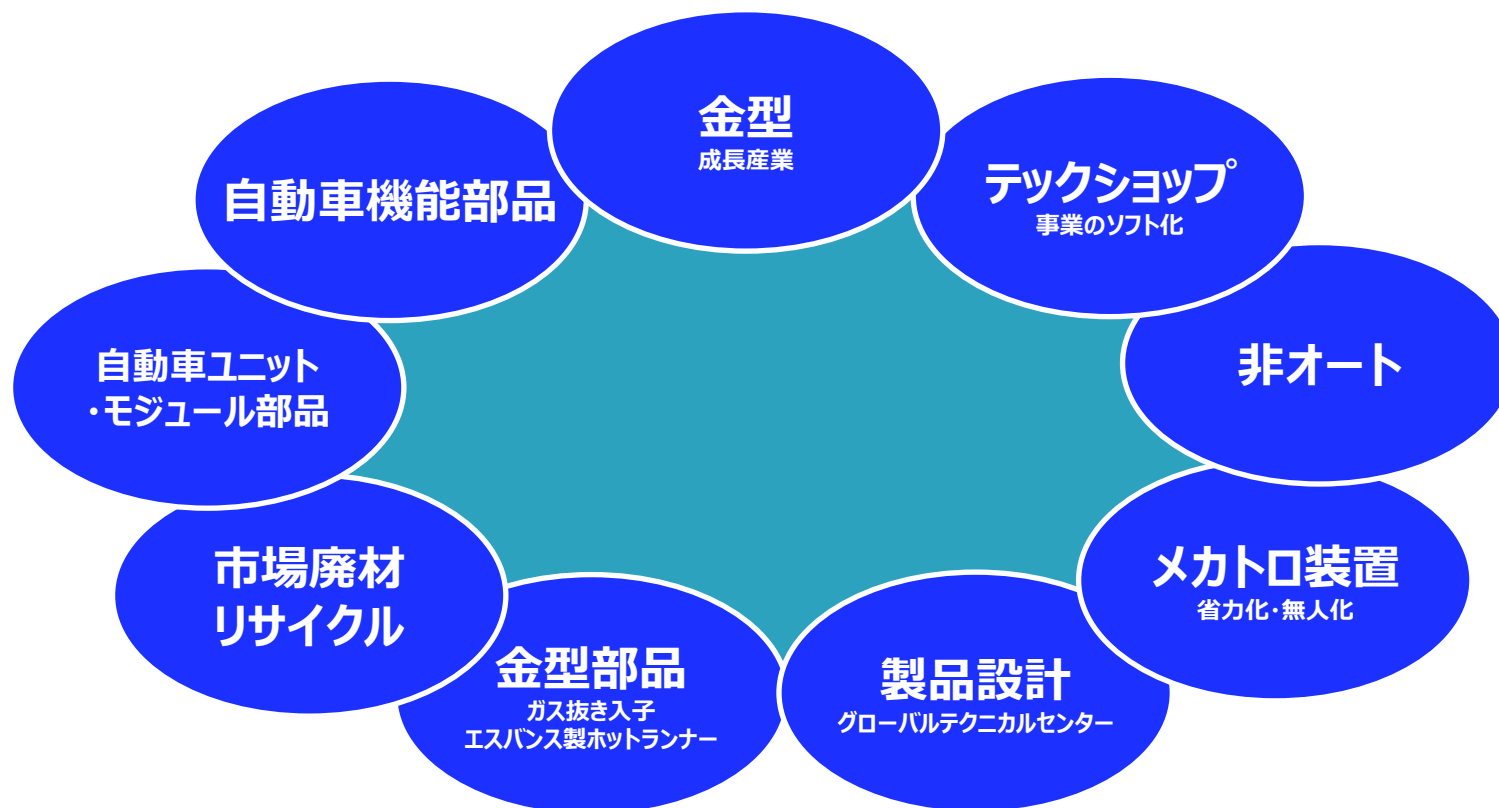


中長期目標 売上高営業利益率10%に向けて目指す売上構成



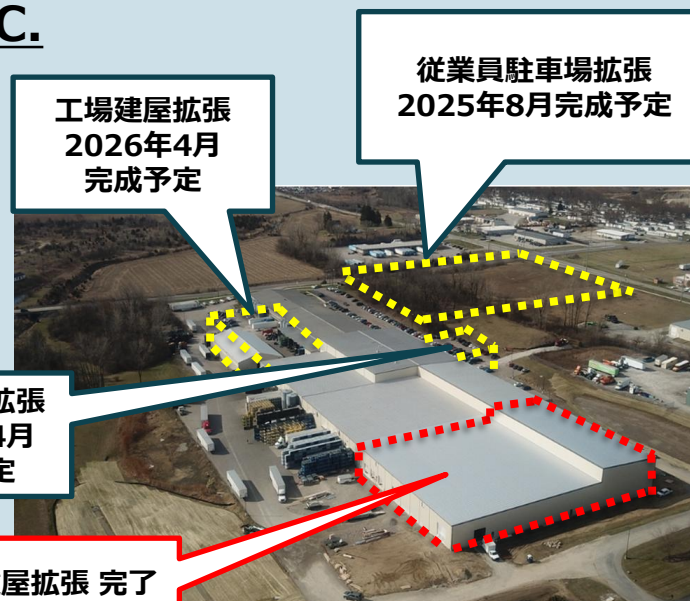
- **付加価値部品：**
“生産ノウハウをベースにした製品設計力”と“業界横断のグローバルでのトレンド情報”、“新製品”をテコに顧客に提案営業
- **従来部品：**
“製品設計”と“生産革新”の複合で時間当たり & 1人当たり生産数倍増（生産性2倍活動）推進

営業力強化・受注増を目指す製品候補



SANKO GOSEI TECHNOLOGIES USA INC.

- ・2015年にBhar(米)から事業譲受
- ・SUBARU・HONDA・TOYOTA・MAZDAとの取引が拡大
- ・日系完成車メーカーのHV・EV受注に向けて追加投資推進中

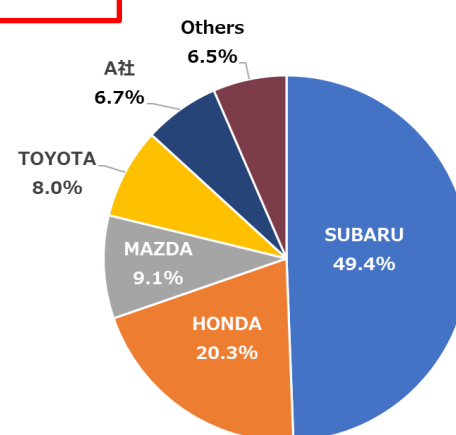


北部→追加投資を実施中

HEV（ハイブリッド）、BEV（電動車）の
新規生産対応で総額100億円規模の投資
（建屋・生産設備）を北米で実施

南部→新拠点を予定

M&Aを中心に、米国南部での拠点新設を検討中



Topic | デリー（ジャジャール）新工場計画・グジャラート追加投資



ジャジャール
工業団地に
倉庫建設



グジャラート工場
拡張用地取得

エアコン生産
新拠点計画



SANKO SVANCE JRG TOOLING INDIA PVT LTD.
| ハリアナ州バワル
Tool room (Injection mold maker) | **金型**



SANKO GOSEI TECHNOLOGY INDIA PVT LTD.
< Haryana Office > | ハリアナ州バワル
Parts supply for Home appliance | **家電向け樹脂部品 販売**

SANKO GOSEI TECHNOLOGY INDIA PVT LTD.
< Gujarat Factory > | グジャラート州マンダル
Injection molding for Automotive & Home appliance
| **自動車・家電向け 樹脂部品 製造販売**



SANKO GOSEI TECHNOLOGY INDIA PVT LTD.
< Erode Office > | タミルナードゥ州エロード
Design center | **設計事務所**

インドの成形会社（STD）

- ・ジャジャールに新工場計画
（大型成形、内装加飾、車機能品）
- ・グジャラートに追加投資（大型成形）
- ・チェンナ近郊に家電（エアコン）新拠点

インドの金型会社（SSJT）

- ・バンパー、インパネ金型確立
- ・ジャジャールに新工場計画
（金型供給能力倍増）

インドでの設計

日本、米国、インドを中心に、
客先の旺盛なリクエストに応える

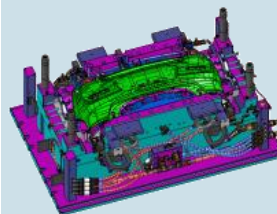


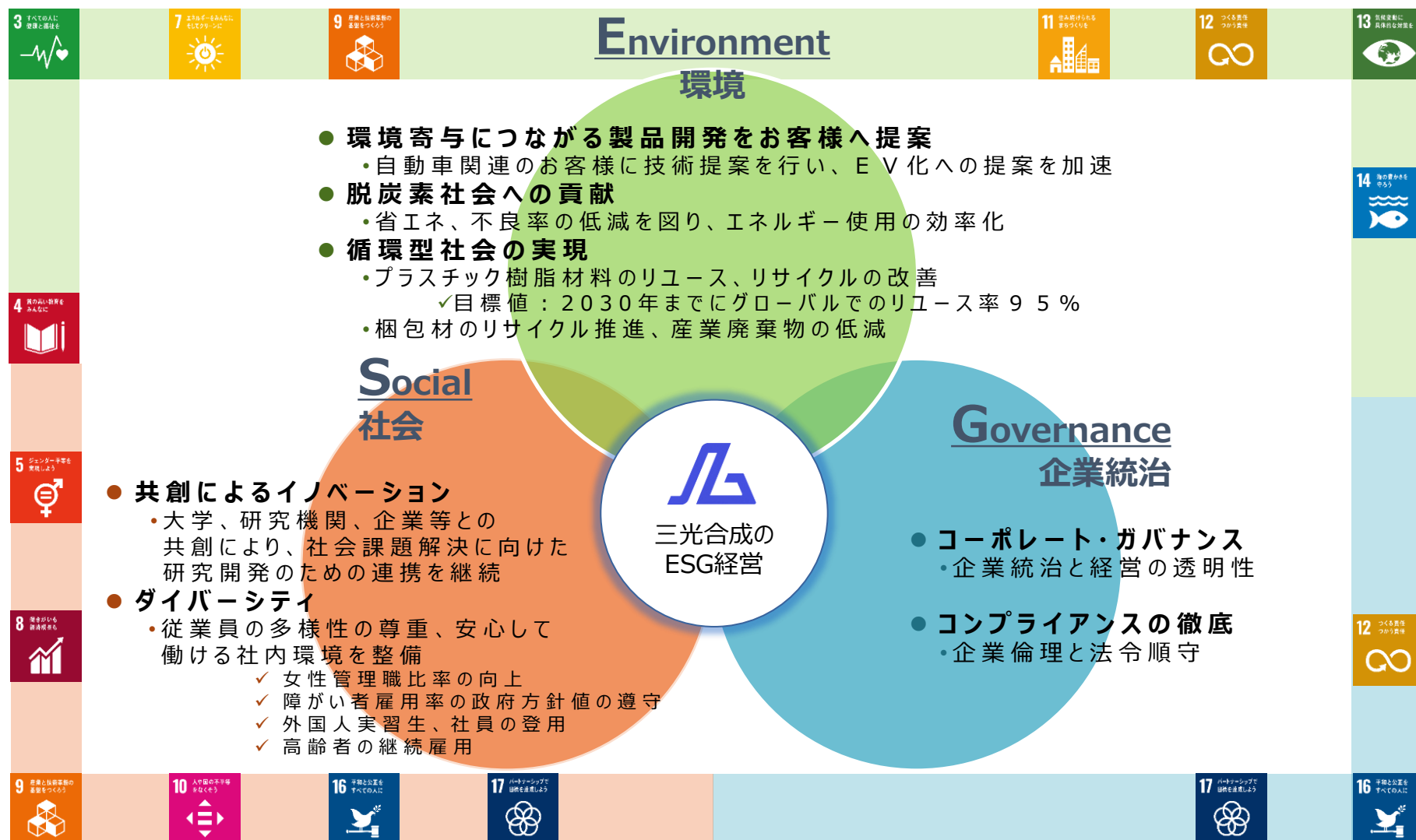
現状、インド拠点15名、
日本派遣7名
さらなる増強体勢へ突入

塗装



倉庫





■富山県SDGs宣言

基本理念「自然との調和に努める」 | 私たちは、当社の製品が全世界で使用されているという認識のもとに、地球環境と地域社会との共生を目指し、環境保全に配慮し、改善を継続する事業活動を行います。

取組目標

社員のモラル向上、精神面鍛錬、そしてお客様へのおもてなしにつながる活動の継続

Action

全員参加のトイレ掃除

海外、国内各工場において

経営層から社員まで全員参加のトイレ清掃で
世界一綺麗なトイレを目指す。



取組目標

プラスチック製品や樹脂材料を海や陸に廃棄しない

Action

成形不良品のリユース

廃棄向け樹脂製品を粉砕し

再生樹脂材料として使用しリユース率を高めていく。
最終処分場までのトレーサビリティにより
ライフサイクルの視点で責任を持つ。



取組目標

人権を尊重し、社員のダイバーシティを推進

Action

ダイバーシティを推進

女性、高齢者、障がい者、外国人の柔軟な雇用と
働きやすい職場環境を維持改善する。



■カーボンニュートラルに向けた取り組み

- ① 日常改善による省エネを推進します。
- ② **再生可能エネルギーを活用します。**
- ③ 生産技術の開発、導入による省エネを推進します。



- ④ 樹脂材料、リユース、リサイクルを推進します。
- ⑤ 不良率低減を含む廃棄物削減を目指します。
- ⑥ 工場および関連施設の緑地化を推進します。

■再生可能エネルギーの受電開始

化石燃料の全体に占める割合：国内工場での電力使用量総合計の40%を達成（2030年目標を前倒しで達成）

富山工場の屋根に太陽光パネルを設置



北陸電力が販売する再生可能エネルギーを活用したメニュー「かがやきGREEN」へ加入



「かがやきGREEN」の加入証明書
（富山工場・テクニカルセンター・大窪工場）

■コンプライアンス研修の推進

階層別研修の充実を図り、会社全体の教育カテゴリーを考察し拡大推進中。

■女性活躍推進に向けた取組み

当社は令和5年度の「とやま女性活躍企業」に認定されました。

「とやま女性活躍企業」とは、企業の成長とウェルビーイング（真の幸せ）の実現に向けて、女性が活躍する県内企業等を県が認定する制度です。



選 定 基 準

- ① 女性の管理職比率 → 産業ごとの全国平均値以上
- ② 時間外労働等の時間数 → 各月ごとに全て45時間未満
- ③ 女性活躍推進に向けた取組み → 具体的な取組みを1つ以上行っている
- ④ 企業内の男女共同参画を進めるチーフ・オフィサーを設置している ほか



◆三光合成株式会社

南砺市土生新1200番地

令和5年度認定

女性の活躍へ向けた中期的な視点で人材育成をすすめると共に、男性の育児休暇取得や、働くお母さんの、育児を含めたワークライフバランスに注力している会社です。



常時雇用労働者数 929人

女性管理職比率 8.4 %
女性管理職数 9人

資本コストや株価を意識した経営の実現



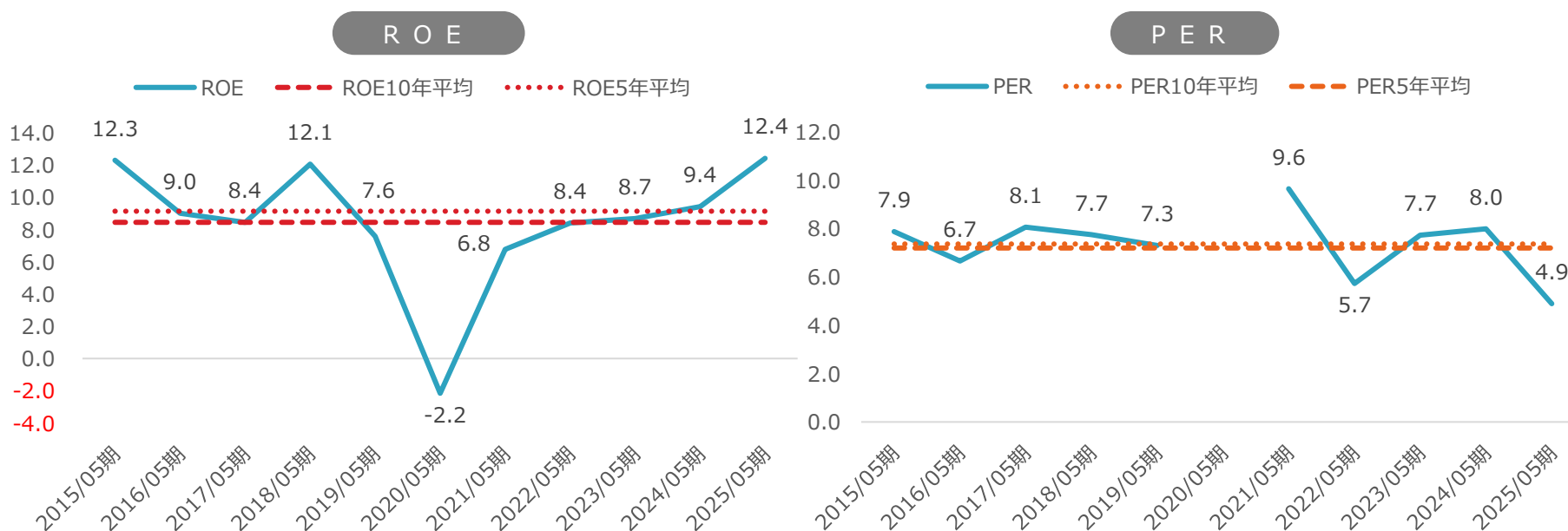
■PBR1倍超に向けた取り組み

現状分析

現在、PBRは0.6倍と、依然としてPBR1倍を下回っている状況
ROEは過去10年平均で約8%、その一方でPERは7倍後半で推移

今後の取組み・方針

ROE：中期目標の営業利益10%を達成することで、ROE向上を目指す
PER：IR活動の強化により、PERの改善を目指す





このプレゼンテーションで述べられている三光合成株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。